

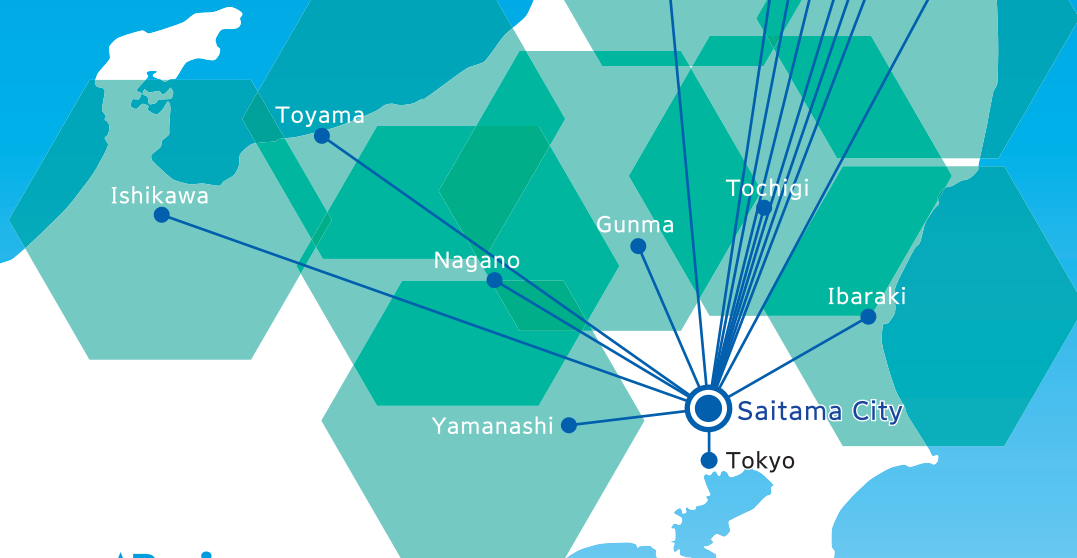
H U B C I T Y

東日本の ハブシティ として存在感を増す、 さいたま市

景気回復への期待感もあり、新たなビジネスチャンスをつかむ企業が
増えている。これらの企業にとって、拠点の拡充は重要な経営
テーマの一つ。どこに拠点を置くかで、経営戦略の成否も左右され
るからである。こうした中、多くの企業から注目されているのが、さい
たま市だ。帝国データバンクの調査によれば、2003～12年ま
での10年間に、さいたま市に本社を移転した企業は829社に上る。
転出を考慮しても、112社の転入超過であり、
指定都市で2番目に多い。

リーマンショックやその後の欧州債務危機、過
剰な円高等を経て、さいたま市への企業本
社の転入が堅調に推移してきたことになる。そ
の理由を取材した。

制作／東洋経済企画広告制作チーム



Business
ASPECT

さいたま市

交通アクセスに優れた 東日本の玄関口

特筆すべきは、まずその地理的優位性である。さいたま市は首都圏の中心部に位置し、都心から近いと同時に、東北・上信越地方の「玄関口」となっている。

JR大宮駅は、2012年度の乗降客数第8位（JR東日本管内）で、東日本の交通の要衝である。東北・秋田・山形・上越・長野の新幹線5路線が乗り入れているほか、京浜東北線や埼京線、湘南新宿ラインなど多くの在来線が通っている。上野、東京、新宿といった都心にわずか20分程度で出られる一方、東北地方を向けば仙台が、上信越地方を向けば新潟や長野が1時間圏内となる。

また、首都高速道路、東北自動車道、関越自動車道などの道路網も発達しており、自動車でも都心や東北・上信越へのアクセスがよいのが魅力である。

このように、交通便利性に優れ、広大なマーケットを後背地に持つことは、さいたま市の大きな特長である。実際、東北・上信越など広域をカバーする拠点を同市に置く企業は多い。

なぜさいたま市 が選ばれるのか?!

- ① 東北・上信越など
東日本の玄関口
- ② 東京都心へ約20分と便利
- ③ 職住近接が実現

さいたま新都心に 本社・研究開発 部門を集約

クラリオン株式会社

Clarion

さいたま市を選んだ大きな理由は交通便利性の高さです。当社のもともと県内戸田市に事業所がありました。また、生産拠点は福島県郡山市にあります。従業員は当地周辺や県北部に居住する者も多く、移転にあたっては、通勤などの負担を軽くしたいと考えました。また、大宮駅に近

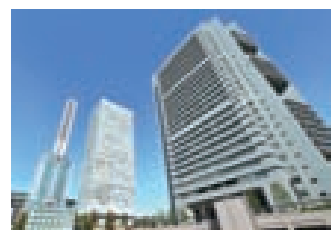
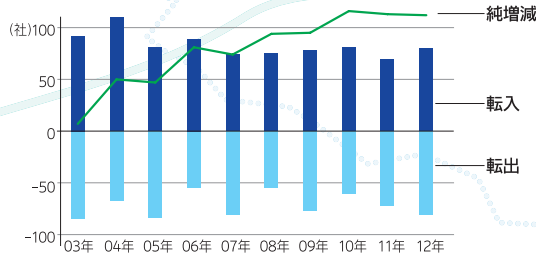
企業本社純増数で2位

過去10年間の企業本社の転入、転出状況を見ると、さいたま市は112社の純増で指定都市中2位。ビジネス拠点として選ばれていることがわかる顕著なデータと言える

転入企業数トップ3(指定都市順位)

1位	Y市	384社
2位	さいたま市	112社
3位	K市	109社

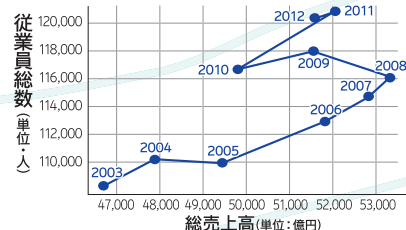
転入企業数の経年グラフ



立地企業の業績は上向き

さいたま市内に本社をおき、10年にわたり操業を続けている企業は、売上高・従業員数ともに成長、拡大傾向にある。さいたま市は、企業が成長する土壌を備えた都市と言えるだろう

売上高と従業員数の合計水準



出所：(株) 帝国データバンク (2013年)「さいたま市立地特性分析及び誘致対象地域現況調査等業務」

さらに存在感が高まる 東日本のハブシティ

さいたま市は優れた交通インフラに特色があるが、その存在感がさらに高まっている。

2015年度には北陸新幹線・北海道新幹線の開業が控えており、カバリエリアはさらに広がる。特に、北陸新幹線の開通により大宮―金沢間が約2時間で結ばれることから、今後、北陸地方を管轄することも視野に同市に拠点を置く企業も増えてくるかもしれない。

さらに、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）が全線開通を予定しており、さいたま市内を通る東京外環自動車道も関越自動車道―東関東自動車道区間の開通を控えている。これにより、首都圏の環状ネットワークの中心にさいたま市が位置することになる。

また、東日本大震災以降のBCP（事業継続計画）に対する意識の高まりにより、同市が地盤の安定した内陸都市であることも、企業に選ばれる一つの理由のようだ。

これからさらに競争力を高めようとする企業にとって、さいたま市は、有望な進出対象の一つと言えるだろう。

北陸新幹線

上越新幹線

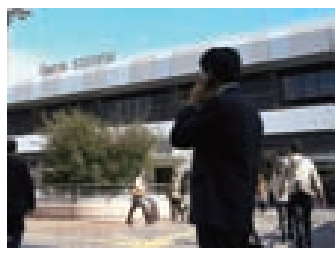
これからも選ばれる さいたま市

- ① 北陸新幹線が開業予定
- ② 圏央道が全線開通予定
- ③ 大宮駅周辺の
オフィス開発が進行中



クラリオン 取締役
経営推進本部 本部長
河元哲史 氏

＜新幹線を利用できるため、福島の拠点や都内での商談などに出かけるのも便利です。私どもが移転したさいたま新都心は、単なるオフィス街ではなく、人々の交流の場でありさまざまなイベントが開催され、実に色々な表情を見せてくれます。約1500人の従業員が移りましたが、皆この街に愛着を感じているようです。ボランティア活動に参加する者もいます。これからも、地域を愛し地域に貢献する企業でありたいと考えています。＞



2015年度には北陸新幹線、北海道新幹線が開業予定。また、同時期に圏央道の全線開通も予定されており、今後、東日本のハブとしての存在感がますます際立ってくる。大宮駅周辺では、大型のオフィス供給が計画されており、ビジネス拠点としての魅力がさらに高まるだろう

関越道

圏央道

世界最大の事業用 不動産サービス 企業に聞く

シービーアールイー株式会社

CBRE

さいたま市に立地を検討している企業は、新幹線が充実していることから、北関東・甲信越をカバーする「広域拠点」を置きたいというところが多いですね。北陸新幹線が開通すれば、さいたまの拠点が北陸地方を管轄する可能性も生まれます。

BCPの観点での魅力もあります。東京のベッドタウンでもあるこの地に拠点を置くことで、従業員の通勤不能、帰宅困難のリスクが低くなり、バックアップ機能が発揮できます。今後は大宮駅周辺で再開発や大型オフィスビルの供給が予定されており、ますますテナント需要の増加が見込まれる地域です。



シービーアールイー
ビル営業本部
さいたま支店
シニアディレクター
三田智一 氏

中央道

東名高速

東海道新幹線

大宮駅
さいたま新都心駅
浦和駅

首都高速

羽田空港

立地にあたっては、さいたま市が全力で企業ニーズの実現に動いてくれる。用地・物件情報の提供はもちろん、その後の行政手続きも窓口となつて対応する。また、立地後の支援における特徴的な取り組みの一つに「さいたま市テクニカルブランド企業認証事業」がある。技術の獨創性・革新性に優れた市内の研究開発型企業を認証する制度で、広報・情報発信のほか、競争力向上に関してきめ細かくサポートしてくれる。

そして、さいたま市の「住みやすさ」も忘れてはならない。実際、市民意識調査で「住みやすい」と答えた人は81.6%、「今住んでいる地域にこれからも住みたい」と答えた人は82.5%にも達する。さいたまスーパーアリーナやJR大宮駅の「ecute」など大型の商業・観光施設が充実しているほか、地域ごとに独自のにぎわいがある。また、イベントも盛んで、今年10月に開催された自転車大会「さいたまクリテリウムブレイツィールドフランス」では、市内外から訪れた約20万人が熱狂した。優れたビジネス環境と住みやすさを兼ね備えた都市、さいたま市。立地の選択肢の一つにぜひ加えるべき都市である。

さいたま発、先端技術の誇りと高み。

さいたま市テクニカルブランド企業2013年度認証

Saitama City Certified Technology Brand Companies 2013

 <p>アコマ医科工業(株) 全身麻酔器、気化器、人工呼吸器、各種医療機器 http://www.acoma.com</p>	 <p>ソフトロニクス(株) 超小型エンコーダ内蔵 新・位置決めサーボモータ http://www.softronics.co.jp</p>
 <p>(株)飯野製作所 世界最速の高速切断機、プレス工法によるパイプ曲げ加工、無交換式オイルフィルター http://www.iinoseisakusho.co.jp</p>	 <p>日産ライトトラック(株) 小型商用車開発 http://www.nmlt.co.jp</p>
 <p>(株)エイ・エス・エイ・ピー 半導体製造のフォトリソグラフィ工程に於ける新ソリューションの提供 http://www.asap-semi.co.jp</p>	 <p>日特エンジニアリング(株) 巻線技術・サーボ制御技術・精密機械加工組立技術・テンション制御技術・継線技術・搬送技術 http://www.nittoku.co.jp</p>
 <p>(株)弘輝テック 後付自動半田付 http://kokitec.co.jp</p>	 <p>(株)長谷川機械製作所 超小型工作機械の製造 http://www.hasegawa-m.co.jp</p>
 <p>サイエンス(株) 【排熱回収型ヒートポンプ】システム技術、 【ろ過装置】ろ過技術(の製造販売) http://www.science-inc.jp</p>	<p>テクニカルブランド企業31社の情報は、さいたま市ビジネス支援・企業立地サイトへ。 さいたま市経済局経済部産業展開推進課 http://www.saitamacity-business.jp</p>

第43回 インターネプコン ジャパン (東10-28)

さいたま市テクニカルブランド事業ブースを出展します! 2014年1/15(水)~17(金) 東京ビッグサイト



さいたま市長
清水 勇人

「東日本のハブシティ」

これは、さいたま市の強みを表すキーワードの1つです。新幹線5路線が乗り入れる鉄道網や3つの高速道路が通る自動車交通網により、本市は、東日本をつなぐ「ハブ」としての優位性を有しています。このような環境の中、本市では「まもり、まねいて、そだてます」を企業誘致の行動テーマとして、立地へのお手伝いはもちろんのこと、進出後も経営・技術革新や販路開拓等の各種支援を提供しています。今後は、北海道新幹線、北陸新幹線の開通や圏央道、外環道等が整備され、さらに交通利便性が増すことが見込まれており、ハブとしてのカバーエリアはますます広がっていきます。ぜひビジネス活動の中核拠点として、さいたま市をご活用ください。「東日本のハブシティ」さいたま市は、末永く皆様のパートナーとしてお役に立てるものと確信しています。